



映画『ごはん』

あらすじ 都会でOLとして働くヒカリアに父の訃報が届く。農業を営んでいた父が、年老いた農家から広大な田んぼを引き継いでいく。米作りの経験も知識もない彼女が、さまざまな人に支えられ、田んぼと向き合う中、父の思いを少しずつ理解していく…。

人物をきちんとして描く

毎回作劇で大切にしているのは、主人公の考えや思い、成長するきっかけになる瞬間をちゃんと描くこと。なぜ急にその人物の考えが変わったのか、成長したことが観客にも理解できるように描く。当然、観客に応援してもらおうようなキャラクターにして、共感を得ることも大事にしています。

最初に上映した映画館でも担当者が「自主映画は通常1週間。でもこれは大ヒットしなきゃダメな作品と思う。とりあえず1カ月は上映するよ」と。結局1年経って、観客もSNSでもちやこちや応援してくれ、大規模館での上映につながっていきました。

父の思いをムダにしない

親父は年金をもらいながら、よそから預かった田んぼを含め5町以上やっていたこともあり、年齢とともに徐々に田んぼを返し、息子の私には「自分の分だけやったらええわ」と。2023年に親父が亡くなり、3年に親父が亡くなり、実家の米作りを継ぎました。この20年ほど田植えや稲刈りの時期にずっと手伝いをしていたので断片的な作業はできるので、一連の知識も経験もなくていい。がんばって作っていい。がんばって作っていい。がんばって作っていい。

親父がずっと米作りをがんばっていたし、コンバインや田植え機など、機械を買ってそろえておいてくれた、その思いをムダにすることはできない。がんばって作っていい。がんばって作っていい。がんばって作っていい。

赤字の小規模農家に頼る米の生産

トラクターで土を耕している時の「シャクシャク」という音、植えたばかりの苗が整列しているさま、実った穂を風が揺らす音…。米作りでそんな小さなことが救いでくれる。でも「どうせ米作りは赤字で終わる」と思うと、夏の熱中症になりかねない。草刈りなどい

ろんなことが徒労に思えて…。これは精神的にかなりきついです。1500万円かかった機械類をがんばって15年使っても、年間100万円かかっている計算です。加えて何十万円も肥料など農業資材を購入し、何日も働かないとならないのに、赤字になるのは明らか。商売的には「撤退するのが一番ですが、そうしないのは、自分たちがお米を作らないとみんなが困るよね、海外に食料を、特に主食を他国に依存してしまうようでは国の主権は一体どうなるんだ、という思いでみんなががんばっている。政府はAIやドローンのスマート農業を奨励するけれど、すでに赤字で苦しんでいるのに、追加投資するのか？ という話です。米の生産量の半分は小規模の兼業農家が担っていて、人数的には9割以上が小規模農家、しかもほぼ100%が赤字といえます。それなのに市場原理だけで米の値段について言われるのは違和感があります。小規模農家を見捨てて、全くでたための農政をしてきた人たちの信頼することはできない。信頼を取り戻したうえで、はじめて将来の農業についての話ができるのではないのかと思うのです。

今後の映画構想も

『待タイムスリッパー』でたくさん賞をいただいたき、また自分で考えた戦略が成功したことに、ものすごい達成感を感じています。プレッシャーも感じますが、先輩監督たちが懇切丁寧に、すごく親切に助言してくれ、安心というか、落ち着く感じがあります。

この先の映画製作については、大先輩である山田洋次監督の了解や力を借りながら、男はつらいよシリーズを現代によみがえらせるような企画をやれば、と考えています。

女性ニュース

2025. 7. 26

最低賃金1700円必要

東京地方労働組合評議会は、リモート通信環境の出費増などコロナ禍を経た生活の変化をふまえ、最低賃金を再分析した。東京都世田谷区の25歳・単身では、月約30万円、時給換算で女性1652円、男性1706円が必要で、2025年の東京都の最低賃金1163円を大きく上回った。

参政党に各界が抗議

参院選に乗じた外国人差別やデマ、女性蔑視、歴史歪曲などを公然と繰り返し、核武装まで主張する候補者も出た参政党に「このままでは社会が壊れる」と各界から厳しい抗議の声があがっている。200カ所超の女性全国一斉抗議行動をはじめ、排外主義扇動反対NGO緊急共同声明

1143団体(18日現在、新婦人も)、日本ベンクラブ、日本女医会、日本発達障害ネットワーク、国際有機農業映画祭などが次々と異例の意見表明。

夏休みの留守番

共働きやひとり親の就労家庭の子どもで、小学校4～6年生が夏休みなどの長期休暇中に「自宅で留守番したことがある」は61.9% (週4日以上20.0%、週2～3日20.0%、週1日11.7%、月1～3回10.2%) だった。サマースクールやキャンプ、旅行などの機会は「なし」が77.8% (放課後NPOアフタースクール調査)。

英、性教育の新指針

イギリス教育省は15日、オンライン上の女性蔑視やポルノ、暴力が広がるなか、性教育の新指針を発表。

人口知能AIやポルノと女性蔑視の関わり、安全の守り方や助けの求め方、性的同意などの指導を2026年9月から全学校に義務づける。日本の学習指導要領は「受精に至る経過」(小5)や「妊娠の経過」(中1)は「取り扱わない」などのまま。朝日新聞の64教育委員会調査でも、学校での性教育拡充が「必要」67.1%、指導要領以上を「認めたい」が50.0%。包括的性教育が急務。

SDGs トランプ逆風

14日、国連は持続可能な開発目標(SDGs)の進捗報告書を発表した。2030年まで「達成可能」は前年から1割増の18%、トランプ米政権の反対が逆風に。事務総長は大きな遅れを取り戻す国際社会の迅速な行動をよびかけた。国際研究組織SDSNによる分析で、日本は17目標

のうち最低評価が、ジェンダー平等、つくる・つかう責任、気候変動対策、海の豊かさ、陸の豊かさ、に、「飢餓ゼロ」が加わり、6つに。

反戦議員の除名否決

イスラエル国会で14日、ガザへの戦争に反対するオデー議員の除名決議案が出されたが、平和人権団体の反対のなか、否決された。「引き続き占領に立ち向かう」と表明。

2025年 戦争はごめん女性のつどい・講演「被爆80年 核兵器のない世界の実現へ飛躍を」土田弥生さん(日本原水協事務局次長)
・8月16日(土) 14～16時、新婦人中央本部2階(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、徒歩7分)、1000円
・日本婦人団体連合会主催、申込み8月5日まで。会場参加・オンラインも fudanren@cocoa.ocn.ne.jp